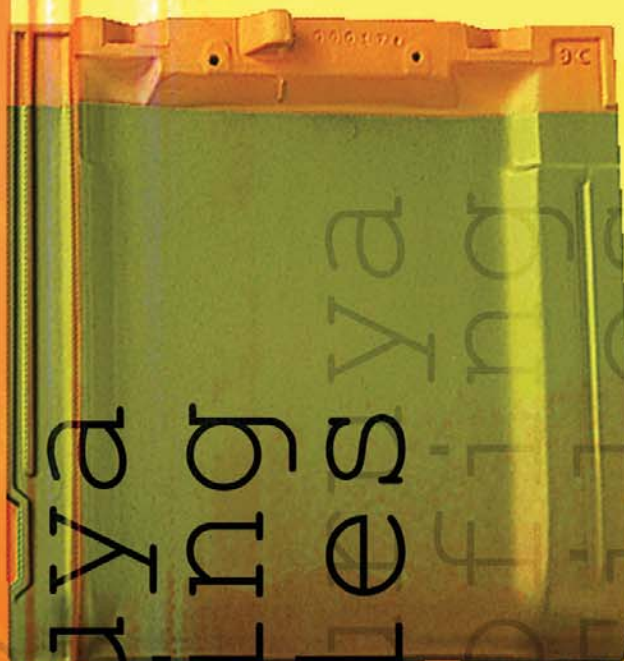


第41期 中間報告書



平成19年4月1日から平成19年9月30日まで



株式会社 鶴 弥

経営に関するQ&A



代表取締役社長 鶴見 宗

<経営理念>

強く美しく、取り扱いはやすく、
値打ちが高く、より安全な、
粘土瓦を提供する。

◆株式会社鶴弥はまもなく創業120周年を迎えられるとのことですが、長い歴史を振り返られて社長ご自身のお気持ちをお聞かせ下さい。

お陰様をもちまして、当社は創業120周年を迎えます。

当社は、創業が明治20年で、会社組織としてのスタートは昭和43年と当業界の中では後発であり、積極的な生産設備の増設に加え、生産ラインの自動化、製品品質の向上を図り、シェア拡大に邁進してまいりました。一方、平成7年1月に関西地域を襲った阪神淡路大震災において、粘土瓦が住宅倒壊に及ぼす影響について一部誤った報道がなされたことで「瓦離れ」が進み、需要が落ち込むという大変苦しい事態を迎えました。私は全国を奔走し、粘土瓦の必要性を力説したことを今も鮮明に覚えております。また、平成10年の大型台風被害の教訓から、粘土瓦の課題であった耐風性・耐震性を飛躍的に向上させた製品の開発に成功し、「スーパートライ110」と名づけました。この製品は将来的に、市場における防災意識の高まりから当社にとって重要な製品となることを確信し、平成13年に「スーパートライ110」専焼ラインとして、当時日本最大の生産枚数を誇る阿久比工場第1ラインを新設、国内住宅市場が縮小する中にあっても当社が発展する原動力となりました。その後、需要の高まりに先んじて阿久比工場第2・第3ラインを順次増設し、今日に至っております。

これまでの当社の発展は、ひとえに、当社製品を長年に亘りご愛顧をいただいているお取引先様、また、当社へご出資いただいております株主の皆様のご支援によるものであり、この場をお借りして厚く御礼申し上げますとともに、今後共、皆様からのご期待に添えるべく全社一丸となって社業の発展に邁進いたします所存であります。

◆当中間期の業績を踏まえて、今後の株式会社鶴弥のあり方をお聞かせ下さい。

瓦業界を取り巻く環境としましては、さらなる燃料費の高騰や資材価格の上昇、改正建築基準法の施行に伴う住宅着工の遅れ等により大変厳しい局面を迎えております。当社におきましては、生産設備の一部自動化や新たに増設した阿久比工場第3ラインの低燃費焼成設備の導入などでコストダウンを図ってまいりましたが、燃料費の急騰は当中間期においてすでに当社の自助努力の範囲を超え、安定供給を前提としてお客様にご理解頂きながら、10月より最終製品価格への転嫁を行わざるを得ない状況となりました。

また、ご承知の通りすでに当業界は再編の時期を迎えており、当中間期における経営環境の悪化は中小の同業他社を安易な価格競争へと向かわせ、それによって更なる経営悪化を招くという悪循環に陥っており、それが業界全体へ波及しつつあり、混沌とした局面を迎えております。

このような状況下におきまして、当社としましては、この局面を好機ととらえて販売網の拡大を進めるとともに、不安定な燃料価格の影響を低減し、より確実な収益基盤を構築するためにコスト構造の改善、製品品質の向上に努め、多角的な製品開発を進め新たな市場の開拓を図ってまいりたいと考えております。

◆株式会社鶴弥の企業価値についての考えをお聞かせ下さい。

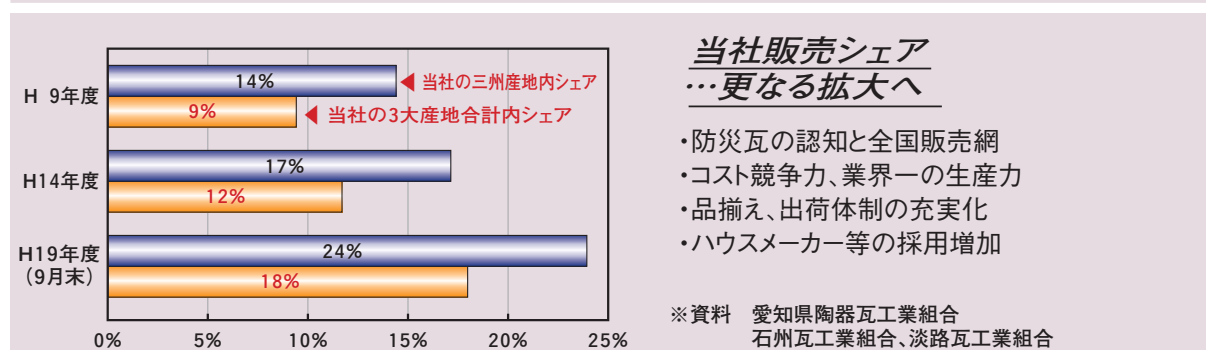
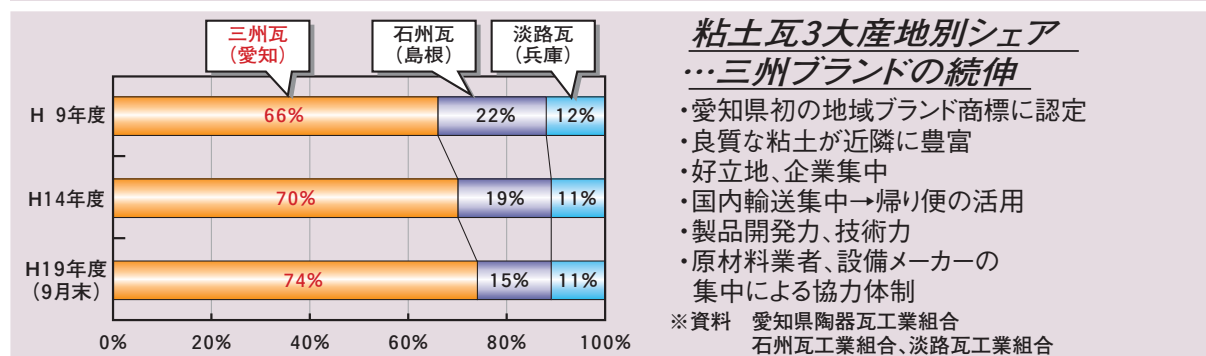
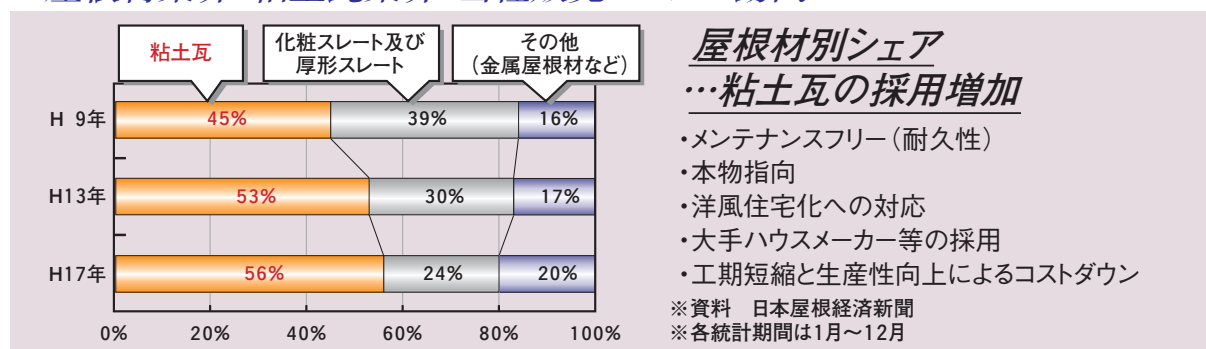
当社は、住宅に対する市場の洋風化と安全意識の高まりから、防災機能を備えたF形瓦の需要拡大を予知し、平成7年4月に本社工場、西尾工場、衣浦工場に続く生産拠点を創るべく、愛知県知多郡に約7万6千㎡の阿久比工場用地を購入し、粘土瓦の需要動向を確認しながら、この地に工場建設を段階的に実施してまいりました。その結果、一時的に有利子負債依存度を高めておりますが、今後、阿久比工場のF形瓦の生産体制を確立し、その販売強化に努め、持続的な業績向上と資本構成の是正を図っていきたいと思っております。

また、当中間期には環境対策の一環として、地球温暖化対策に効果が期待されている太陽光エネルギー高反射瓦「サマースノーシリーズ」の販売を開始いたしました。この他にも、施工現場における廃材の削減や工場稼働における環境負荷低減に対する取組みなどを進め、環境対策という企業としての社会的責任を果たしていきたいと考えております。

今後、当社は、寡占化の進む粘土瓦業界において生き残るために、粘土瓦の需要動向を先見し、積極的かつ有効的な生産設備の新設または更新を実施するとともに、有利子負債の低減を図り、将来に向けた安定的な収益基盤づくりのための内部留保に努め、かつ、業績に応じた配当を安定的に行い、企業価値の向上に努力し、株主の皆様のご期待に応えてまいりたいと存じます。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご理解とご支援を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

一屋根材業界・粘土瓦業界・当社販売シェアの動向一



経営成績

1. 当中間期の概況

当中間会計期間におけるわが国の経済は、設備投資・輸出・個人消費及び雇用環境が堅調に推移し、国内外の需要が引き続き増加する中、緩やかな景気拡大基調が続いております。

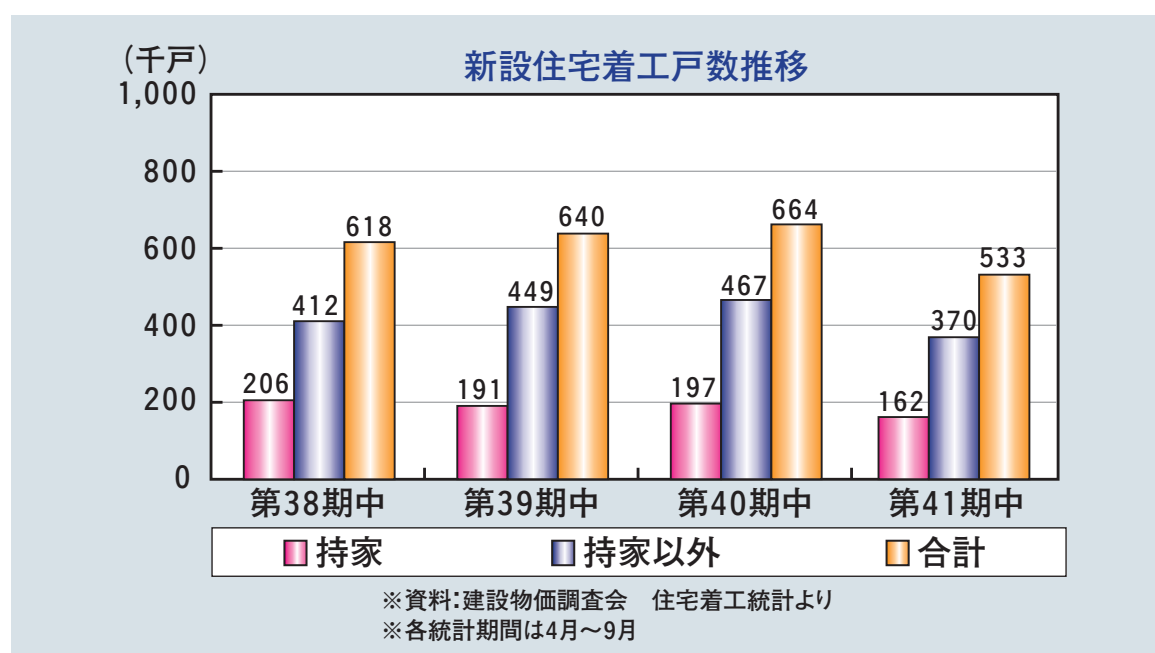
当業界におきましては、粘土瓦需要動向を大きく左右する新設住宅着工戸数（特に持家）が平成19年6月の建築基準法改正による建築確認手続きの厳格化による影響と消費者による金利動向等の様子見による自然減が重なり、住宅着工戸数が前年同期に比べ大幅に減少したことにより出荷が停滞し、併せて予想を超えた燃料価格の急騰・同業者のF形瓦増産設備投資により、熾烈な価格競争となり企業間競争は一層激化しております。

このような情勢下当社は、住宅の洋風化が益々顕著に推移していく中、「スーパートライ110」の慢性的な在庫不足を解消し、お客様に満足していただけるように平成19年4月に阿久比工場に第3ライン（F形棧瓦専焼ライン）を立ち上げ、製品の品揃えの充実をはかりました。

利益面におきましては、新設住宅着工戸数の大幅な減少による出荷の停滞及び熾烈な価格競争が展開される中、売上高におきましては、ほぼ前期並を確保したものの、阿久比工場第3ライン稼働に伴う諸費用・予想を超えた燃料価格の急騰・出荷停滞に伴う生産設備の稼働率低下等による製造コストアップ要因等により、売上総利益率が前年同期と比較して2.9ポイント低下した事が大きな負担となりました。

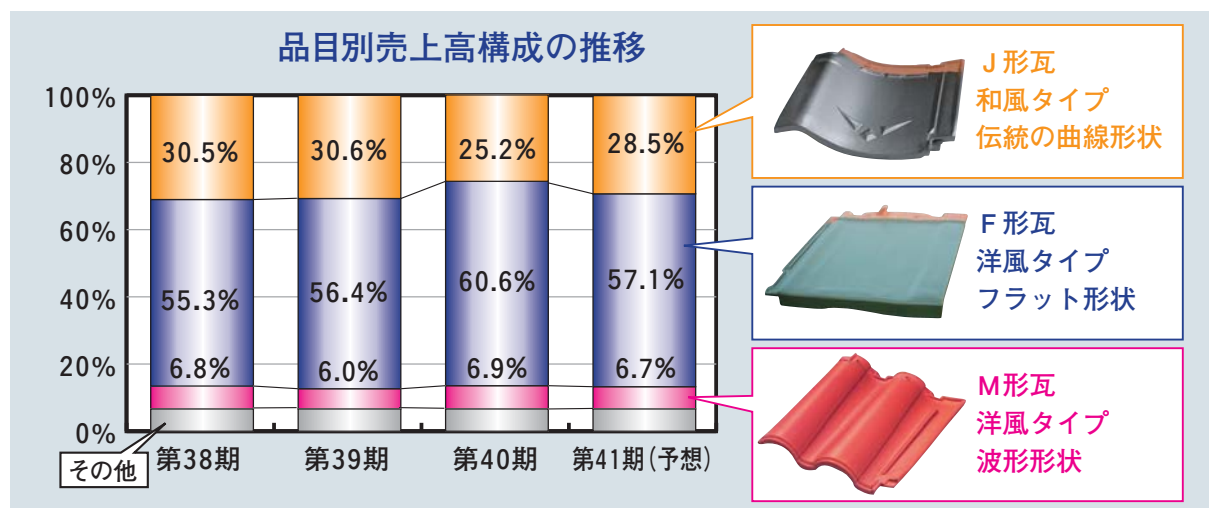
この結果、当中間会計期間の売上高は、62億57百万円（前年同期比0.7%増）、営業利益2億78百万円（前年同期比36.8%減）、経常利益2億52百万円（前年同期比40.3%減）、中間純利益1億33百万円（前年同期比43.0%減）の増収減益となりました。

なお平成20年3月期の配当金につきましては、年間15円（中間配当金7.5円・期末配当金7.5円）の普通配当に創業120周年記念として年間5円（中間配当金2.5円・期末配当金2.5円）を上乗せし1株に付き年間20円とさせていただく予定です。



◇品目別売上高実績◇

品 目 別	売 上 高 (百万円)	構 成 比 (%)	前年同期比 (%)
J 形 瓦	1,730	27.6	115.6
F 形 瓦	3,639	58.2	93.5
M 形 瓦	397	6.4	101.6
そ の 他	490	7.8	113.5
合 計	6,257	100.0	100.7



2. 通期の見通し

通期の見通しにつきましては、当中間会計期間以降の日本経済はサブプライム問題による米景気の先行き不安、為替相場が輸出に与える影響・原油価格の急騰等先行きの景況に不透明感が広がり、予断を許さない状況になってまいりました。

当業界におきましても、建築基準法改正と持家住宅の自然減の影響により実需予測が見えにくい現状を考慮すると新設住宅着工戸数(特に持家)の大幅な増加が見込まれない一方、同業者間のF形瓦増産設備投資による熾烈な価格競争に加え燃料価格の急騰による製造コストの上昇を製品に転嫁せざるを得ない状況が続く中、同業者間の熾烈な競争が続く厳しい収益環境が続くと予想されます。

こうした情勢のもとで厳しい経営環境に対処すべく当社は、販売面においては、今迄以上の積極営業により販売基盤の拡大を図り、適正価格での販売に注力し、一方製造面においては、燃料価格の急騰による製造コスト上昇分の一部でも吸収する為、徹底したコスト削減に努め、併せて出荷面においては、他社に先んじた出荷体制の更なる強化・製品ヤードの整備等による出荷サービスの差別化・さらに環境に優しい新商品の開発による商品の差別化等により総合評価を上げ、社内においては、企業の社会的責任を自覚し全社を挙げてコンプライアンスの徹底を図り、当社のブランド力及び顧客満足度の向上に積極的に取り組んでまいります。

貸借対照表

(単位：千円)

科 目	期 別	前中間期 (平成18年9月30日現在)	当中間期 (平成19年9月30日現在)	増 減	前 期 (平成19年3月31日現在)
(資 産 の 部)					
流 動 資 産					
現 金 及 び 預 金		1,445,664	1,767,578		1,509,795
受 取 手 形		1,376,807	556,002		1,412,421
売 掛 金		1,567,297	1,562,098		1,292,500
た な 卸 資 産		1,391,929	2,520,764		2,094,523
繰 延 税 金 資 産		130,606	111,118		135,969
そ の 他		57,568	113,447		48,962
貸 倒 引 当 金		△ 100,382	△70,607		△78,219
流 動 資 産 合 計		5,869,490	6,560,402	690,911	6,415,952
固 定 資 産					
有形固定資産					
建 物		1,543,461	2,065,321		1,515,433
機 械 及 び 装 置		1,476,100	2,526,484		1,354,775
土 地		9,163,376	9,163,376		9,163,376
建 設 仮 勘 定		377,511	19,681		1,403,062
そ の 他		423,649	596,164		524,953
計		12,984,098	14,371,029	1,386,930	13,961,601
無形固定資産		29,860	22,991	△6,868	25,675
投資その他の資産					
繰 延 税 金 資 産		375,249	184,324		123,265
そ の 他		1,046,147	734,386		808,251
貸 倒 引 当 金		△ 427,647	△221,374		△221,619
計		993,749	697,335	△296,413	709,897
固 定 資 産 合 計		14,007,708	15,091,356	1,083,648	14,697,174
資 産 合 計		19,877,199	21,651,759	1,774,560	21,113,126

(単位：千円)

科 目	期 別	前 中 間 期 (平成18年9月30日現在)	当 中 間 期 (平成19年9月30日現在)	増 減	前 期 (平成19年3月31日現在)
(負債の部)					
流動負債					
支払手形		2,216,226	2,451,611		2,600,482
買掛金		494,332	566,350		565,406
短期借入金		5,450,000	5,300,000		5,300,000
1年以内返済予定の長期借入金		692,000	485,000		692,000
未払費用		471,817	509,701		486,398
未払法人税等		244,216	112,274		231,401
賞与引当金		170,322	200,964		202,136
役員賞与引当金		11,370	11,770		23,540
設備関係支払手形		432,274	834,727		630,746
その他		107,765	105,894		224,463
流動負債合計		10,290,324	10,578,292	287,968	10,956,574
固定負債					
長期借入金		545,000	1,260,000		399,000
退職給付引当金		70,165	66,540		69,903
役員退職慰労引当金		613,332	625,414		619,724
その他		1,000	5,000		5,000
固定負債合計		1,229,497	1,956,954	727,456	1,093,627
負債合計		11,519,822	12,535,247	1,015,424	12,050,201
(純資産の部)					
株主資本					
資本金					
資本剰余金		1,817,350	2,144,134	326,784	2,144,134
資本準備金		2,640,350	2,967,134		2,967,134
その他資本剰余金		57	57		57
資本剰余金合計		2,640,407	2,967,191	326,784	2,967,191
利益剰余金					
利益準備金		110,163	110,163		110,163
その他利益剰余金					
特別償却準備金		28,587	19,822		24,205
固定資産圧縮積立金		22,973	22,167		22,444
別途積立金		2,050,000	2,050,000		2,050,000
繰越利益剰余金		1,573,148	1,722,124		1,642,514
利益剰余金合計		3,784,872	3,924,278	139,406	3,849,327
自己株式		△5,703	△5,703	—	△5,703
株主資本合計		8,236,925	9,029,900	792,974	8,954,949
評価・換算差額等					
その他有価証券評価差額金		120,451	86,612	△33,839	107,975
純資産合計		8,357,376	9,116,512	759,135	9,062,924
負債・純資産合計		19,877,199	21,651,759	1,774,560	21,113,126

損益計算書

(単位：千円)

科 目	期 別	前 中 間 期 (自平成18年4月1日 至平成18年9月30日)	当 中 間 期 (自平成19年4月1日 至平成19年9月30日)	増 減	前 期 (自平成18年4月1日 至平成19年3月31日)
売 上 高		6,214,591	6,257,435	42,843	12,133,039
売 上 原 価		4,625,499	4,839,004	213,505	9,051,902
売 上 総 利 益		1,589,092	1,418,431	△170,661	3,081,137
販売費及び一般管理費		1,149,400	1,140,344	△9,055	1,988,487
営 業 利 益		439,692	278,086	△161,605	1,092,649
営 業 外 収 益		22,491	40,837	18,346	42,181
営 業 外 費 用		39,874	66,687	26,812	111,909
経 常 利 益		422,308	252,237	△170,071	1,022,921
特 別 利 益		92	8,474	8,381	3,081
特 別 損 失		3,851	12,054	8,203	26,685
税引前中間(当期)純利益		418,550	248,656	△169,893	999,317
法人税、住民税及び事業税		232,848	101,315	△131,532	441,907
法 人 税 等 調 整 額		△ 47,765	14,206	61,972	207,304
中 間 (当 期) 純 利 益		233,466	133,133	△100,333	350,105

株主資本等変動計算書 (平成19年4月1日から平成19年9月30日まで)

(単位：千円)

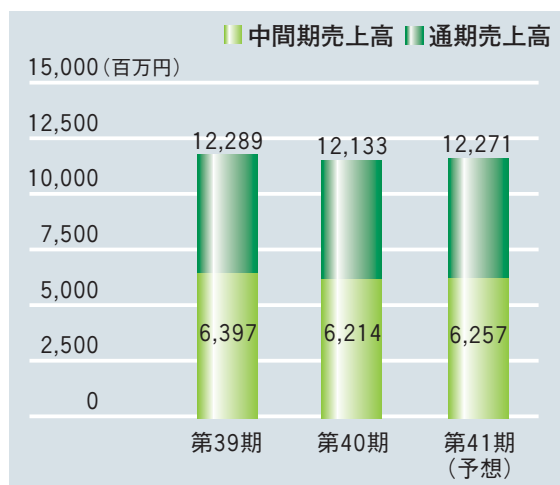
	株 主 資 本											自 己 株 資 合 計	株 主 本 計
	資本金	資 本 剰 余 金			利 益 剰 余 金					利 益 合 計			
		資 本 準 備 金	そ の 他 資 本 剰 余 金	資本剰余金 合 計	利 益 準 備 金	その他利益剰余金							
						特別償却 準 備 金	固定資産 圧 縮 積 立 金	別 途 積 立 金	繰越利益 剰 余 金				
平成19年3月31日 残高(千円)	2,144,134	2,967,134	57	2,967,191	110,163	24,205	22,444	2,050,000	1,642,514	3,849,327	△5,703	8,954,949	
中間会計期間中の 変動額													
特別償却準備金の 取崩し						△4,382			4,382	—		—	
固定資産圧縮積立 金の取崩し							△276		276	—		—	
剰余金の配当									△58,182	△58,182		△58,182	
中間純利益									133,133	133,133		133,133	
株主資本以外の項目の 中間会計期間中の 変動額(純額)													
中間会計期間中の 変動額合計(千円)	—	—	—	—	—	△4,382	△276	—	79,609	74,951	—	74,951	
平成19年9月30日 残高(千円)	2,144,134	2,967,134	57	2,967,191	110,163	19,822	22,167	2,050,000	1,722,124	3,924,278	△5,703	9,029,900	

	評価・換算差額等		純 資 産 計
	その他有価証券 評価差額金	評 価 ・ 換 算 差 額 等 合 計	
平成19年3月31日 残高(千円)	107,975	107,975	9,062,924
中間会計期間中の 変動額			
特別償却準備金の 取崩し			—
固定資産圧縮積立 金の取崩し			—
剰余金の配当			△58,182
中間純利益			133,133
株主資本以外の項 目の中間会計期間 中の変動額(純額)	△21,363	△21,363	△21,363
中間会計期間中の 変動額合計(千円)	△21,363	△21,363	53,587
平成19年9月30日 残高(千円)	86,612	86,612	9,116,512

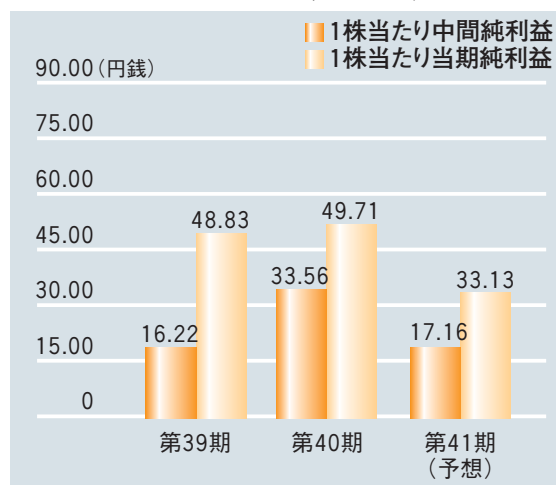
(注) 記載金額は、千円未満の端数を切り捨てて表示しております。

財務データ

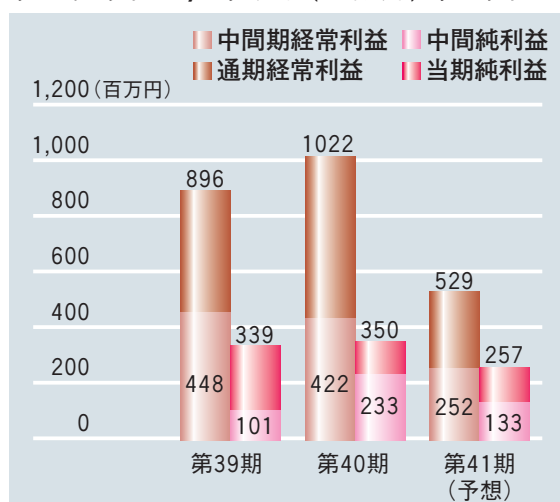
売上高



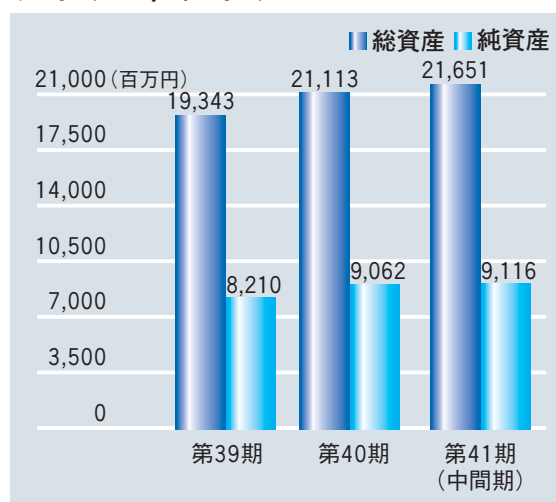
1株当たり中間(当期)純利益



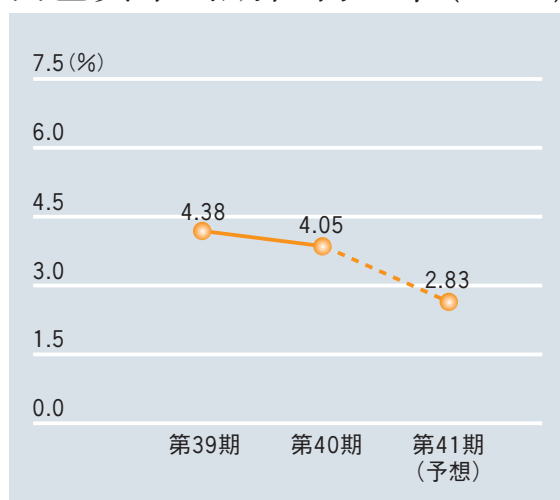
経常利益/中間(当期)純利益



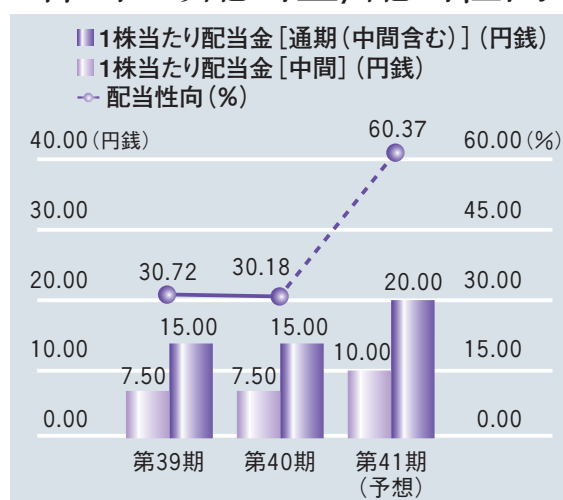
総資産/純資産



自己資本当期純利益率(ROE)



1株当たり配当金/配当性向



注) 1株当たり当期純利益・自己資本当期純利益率・1株当たり配当性向につきましては、第39期、第40期ともに公募増資後の株式数等に基づき算出しております。

株式の状況(平成19年9月30日現在)

○株式数及び株主数

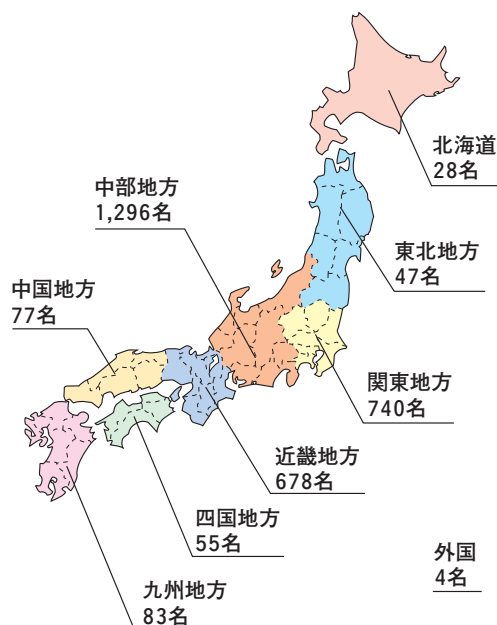
発行可能株式総数…………… 25,000,000 株
 発行済株式の総数…………… 7,767,800 株
 当中間期末の株主数…………… 3,008 名
 自己株式の保有数…………… 10,099 株

○大株主(上位10名)

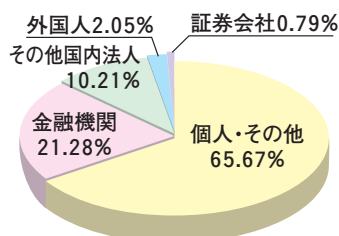
株 主 名	当社への出資状況	
	持株数(株)	出資比率(%)
鶴 見 哲	1,551,200	19.99
有 限 会 社 ト ラ イ	560,500	7.22
株式会社三菱東京UFJ銀行	310,400	4.00
株式会社みずほ銀行	310,000	3.99
商工組合中央金庫	308,000	3.97
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	218,200	2.81
鶴 見 栄	140,000	1.80
鶴 見 日 出 雄	132,000	1.70
岡 崎 信 用 金 庫	132,000	1.70
細 井 芳 美	132,000	1.70

(注) 出資比率は、自己株式を除く発行済株式総数に対する持株数の割合であります。

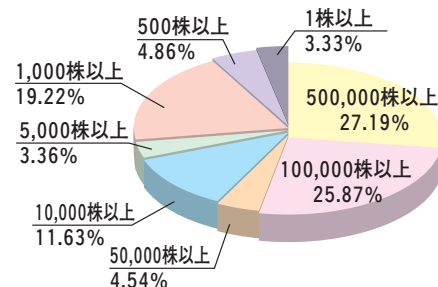
○地域別株主分布図



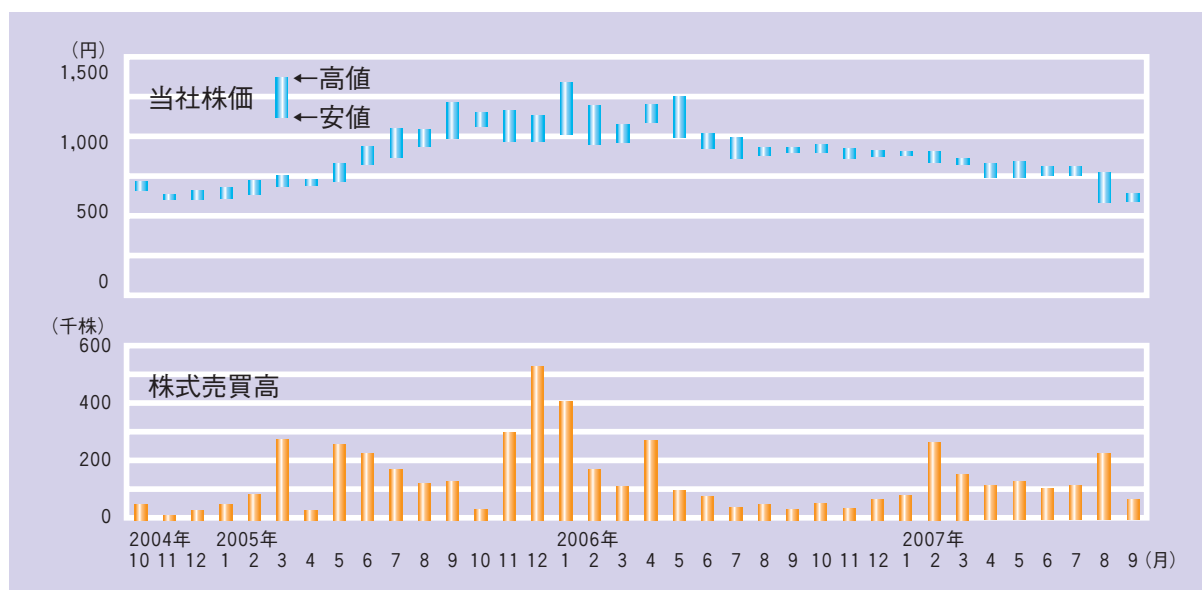
○所有者別分布状況



○所有株数別分布状況



○株価・株式売買高の推移



会社の概要 (平成19年9月30日現在)

商 号	株式会社 鶴弥 TSURUYA CO., LTD.
本 社	愛知県半田市州の崎町2番地12 TEL (0569) 29-7311(代表)
設 立	昭和43年2月
事 業 内 容	陶器瓦の製造及び販売 屋根工事の請負及び施工 屋根資材の販売 上記に付帯関連する一切の事業
資 本 金	2,144,134,000円
発行済株式総数	7,767,800株
従 業 員 数	512名

役員 (平成19年9月30日現在)

代表取締役社長	鶴 見 栄	取 締 役	神 谷 秀 夫
代表取締役専務	鶴 見 哲	取 締 役	榎 本 守
常 務 取 締 役	稲 垣 富 定	常 勤 監 査 役	近 藤 和 敏
常 務 取 締 役	藤 井 雅 昭	監 査 役	住 友 暉 男
取 締 役	白 井 義 春	監 査 役	北 折 義 孝
取 締 役	柿 原 勝 夫	監 査 役	鶴 見 恒 夫
取 締 役	山 内 浩 一		

(注) 監査役住友暉男氏及び鶴見恒夫氏は、会社法第2条第16号に定める社外監査役であります。

事業所

本社及び本社工場

〒475-8528 愛知県半田市州の崎町2番地12

衣 浦 工 場

〒475-0032 愛知県半田市潮干町1番地1

西 尾 工 場

〒444-0325 愛知県西尾市楠村町南浜屋敷16番地1

阿 久 比 工 場

〒470-2215 愛知県知多郡阿久比町大字矢高字西の台1番地1

丸 福 支 店

〒939-1554 富山県南砺市安居298番地

仙 台 営 業 所

〒983-0002 宮城県仙台市宮城野区蒲生2丁目29番地3



▲阿久比工場正門

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
基準日	定時株主総会の議決権 3月31日
	期末配当金 3月31日
	中間配当金 9月30日
公告方法	電子公告によります。ただし、電子公告によることができない事故 その他やむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載い たします。
公告のホームページアドレス	http://www.try110.com
株主名簿管理人	東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社
同事務取扱場所	名古屋市中区栄三丁目15番33号 中央三井信託銀行株式会社 名古屋支店 TEL(0120)78-2031(フリーダイヤル)
同 取 次 所	中央三井信託銀行株式会社 本店及び全国各支店 日本証券代行株式会社 本店及び全国各支店
単 元 株 式 数	100株

(お知らせ)

住所変更、単元未満株式買取請求、名義書換請求及び配当金振込指定に必要な各用紙のご請求は、
下記株主名簿管理人中央三井信託銀行株式会社のフリーダイヤルまたはホームページをご利用下さい。

- フリーダイヤル (0120) 87-2031 (24時間受付:自動音声案内)
- ホームページ http://www.chuomitsui.co.jp/person/p_06.html

製品・商品紹介

F形防災瓦



イチ イチ マル スーパートライ110 タイプⅠ

適度なボリューム感が
華やかなタイプⅠ。
洋風住宅に高級感を演
出します。
全 8 色



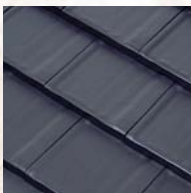
カラー:マツグリーン

スーパーロック工法で従
来の約 6 倍の耐風性能を
発揮します。台風時など
強風に威力を発揮するオ
リジナルな工夫です。



イチ イチ マル スーパートライ110 タイプⅡ

シンプルな美しさを誇
るタイプⅡ。
洋風・和風どちらにも
似合います。
全 8 色

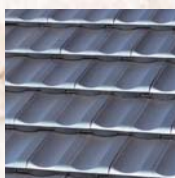


カラー:マツブラック



イチ イチ マル スーパートライ110 タイプⅢ

瓦の山と谷が縦につな
がるシンプルなフォル
ムは、色によりそのイ
メージを大きく変える
ことができます。
全 6 色



カラー:銀鱗 (ギンリン)



ハイパーアームとアンダー
ロック部がロックされるスー
パーロック工法は耐風性能
実績No.1!!
従来の瓦と比べ約6倍の
耐風性能が発揮されます。



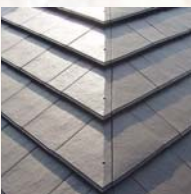
暴風雨に威力を発揮する
新設計ポイントリターンと
2つの谷をもつ新形状で
防水性能を格段にアップ。
緩勾配での使用が可能に
なりました。

「ポイントリターン」



スーパートライ110 エフエム FM

廻隅瓦のシンプ
ルな外観に、スー
パーロック工法を
プラスしました。



カラー:アンティークブラウン

屋根面に合わせた形状で廃材を通常工法
の約90% (平均) 削減可能。
現場での瓦切断作業が減るので、工事
現場での騒音・粉塵の軽減も図れます。



通常工法
(32kg)

約90%
削減
(平均)

廻隅瓦
(0~7kg)

M形防災瓦



スーパータイ110 サンレイ

個性的で華やかな印象のサンレイ。暖かな風合いが洋風住宅を明るく楽しく演出します。



カラー：ナチュラルブラウン



スーパータイ110 サンレイ

Tierra Series
ティエラシリーズ

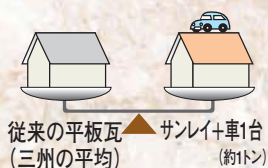
南欧の大地の自然な色で明るく暖かな屋根に仕上げます。2色吹き付けにより優しい色合いの混ぜ葺きが可能です。



カラー：ティエラレッド
ティエライエロー
ティエラホワイト



▲ スーパーロック工法により優れた耐風・耐震効果を発揮します。



20%
軽量

▲ 従来の平板瓦に比べ約20%軽くなりました。

J形防災瓦



J形防災瓦 エース

日本伝統の形に「強さ」を付け加えた安心の和風瓦です。



カラー：美銀 (ピギン)

組み合わせ構造により、優れた耐風効果を発揮します。



2重の水返し構造により、優れた防水効果を発揮します。



J形防災瓦 Super Ace

耐風・耐震・防水に関する多くの安心機能を盛り込みました。



カラー：銀鱗 (ギンリン)

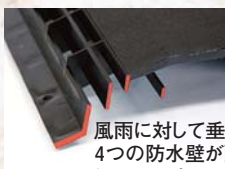


◀ かみ合わせ構造により、優れた耐風・耐震効果を発揮します。

谷部に設けたエースバリアにより、雨水の流れをスムーズにします。



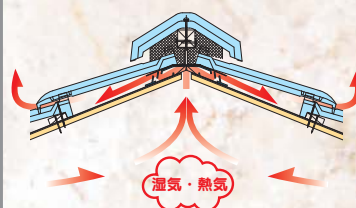
その他



風雨に対して垂直に設けた
4つの防水壁が雨水を完全に
シャットアウト

オリジナル 棟換気システム エアフロー

小屋裏の換気機能は
もちろん、厳しい条件
の暴風雨に対しても
漏水しません。取り付
けも簡単で、屋根の
形状に合わせて、フレ
キシブルに施工でき
ます。



▲軒から吸気した空気を屋根
頂部で排気するゼロエネルギー
自然換気システムです。

カルむね



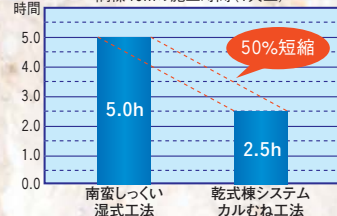
軽くて高耐久な乾式棟
システム「カルむね」は、
湿式工法と比べ、屋根
の重さを20%(約1t)減
量することができます。



※防水性能試験において、時間降雨量240mm/hr、風速49m/s相当の圧力という厳しい条件で
「漏水無し」という結果が得られました。(於愛知県三河窯業試験場)

乾式棟システム
カルむね

隅棟40mの施工時間(1人工)



簡単な施工で、湿式工法と比較して50%の施工
時間短縮を実現(当社調査)。
雨が降り出しそうな時も施工が可能で、凍害対策
も不要、寒冷地にも最適です。

ハイブリッドリング釘

スーパースライム・サンレイ用



リング釘の性能
①引き抜き強度
(従来の1.3倍)
②止水性
スクリュー釘の性能
③施工性

引き抜き強度(瓦の
留め付け力)・止水
性に優れたリング釘
と、施工性(打ち込み
やすさ)に優れたスク
リュー釘の性能を融
合させました。



【釘の種類による性能の違い】

性 能	スク リュー 釘	リング 釘	ハイブ リット リング釘	
止水性	×	○	○	←リング釘 と同じ
引抜き 強 度	△	○	○	←スクリュー 釘の1.3倍
施工性	○	×	○	←スクリュー 釘と同じ

トピックス

1.新色「サマースノーシリーズ」発売



▲ スノーホワイト (タイプ I)

平成19年10月に粘土瓦としては初となる、太陽光エネルギー高反射瓦「サマースノーシリーズ」色を発売いたしました。“地球にやさしいこと”をキーワードに名古屋工業大学の協力のもと開発に取り組み、太陽光を60%以上反射し、屋根への蓄熱を減少、冷房負荷低減させることでヒートアイランド現象を緩和する“エコロジー&エコミーな瓦”となっております。

また、平成19年11月6日～10日に中国の上海で開催の「中国国際工業博覧会」、同年11月14日～16日に愛知県名古屋市で開催の「2007NEW環境展名古屋(特設! 地球温暖化対策コーナー)」に本製品を出展しました。



▲ 中国国際工業博覧会の様子



▲ 2007NEW環境展名古屋の様子

今後、平成20年1月30日～2月1日に東京都にて開催予定の「ENEX2008 東京会場」、平成20年3月4日～3月7日に東京都にて開催予定の「建築建材展 2008」に本製品を出展する予定です。

<ENEX2008 東京会場>

開催日時:平成20年1月30日～2月1日
(10:00～17:00)

開催場所:東京ビッグサイト西3・4ホール

ご連絡先:ENEX展事務局
(財団法人省エネルギーセンター内)
TEL:03-5543-3013/FAX:03-5543-3887

E-mail: enex2007@eccj.or.jp

<建築建材展 2008>

開催日時:平成20年3月4日～3月7日
(10:00～17:00※最終日のみ16:30)

開催場所:東京ビッグサイト東5・6ホール

ご連絡先:日本経済新聞社
文化・事業局 総合事業部
建築・建材展事務局

TEL:03-5255-2847/FAX:03-5255-2860
E-mail: info@ac-materials.jp

2.新色「美銀」のF形瓦発売



▲美銀(タイプⅡ)

平成19年5月にJ形防災瓦「エース」の新色として、銀白色「美銀」を発売いたしました。さらに、同年9月より当社主力商品F形防災瓦「スーパートライ110」にも新色として採用いたしました。シャープな形と和テイストの色の融合はジャパニーズモダンからスタイリッシュスタイルまで新しい仕様を提案いたします。

3.阿久比工場に廃材利用の庭園緑地完成



▲庭園緑地全景

遊歩道部分に、廃材をリサイクルした製品を使用しております。

当社は、環境対策の一環として、阿久比工場敷地内に緑地帯を整備するとともに、瓦の廃材を使用した建築材の開発を進めてまいりました。

コンクリートに瓦を細かく粉砕した「シャモット」を混ぜ合わせることで、雨水の透水力・保水力が高まり、従来のコンクリート路面より、保水性及び水捌けが向上しています。また、製品内部に貯留された水が晴天時に蒸発することにより、ヒートアイランド現象の原因である路面温度の上昇を少なくする効果が得られます。

今後も当社は環境に配慮した製品の開発に努力していく所存です。

4.名証IRエキスポ2007に出展



◀一般投資家への説明風景

当社は、今年もIR活動の一環として、(株)名古屋証券取引所が主催する「名証IRエキスポ2007」(平成19年7月開催)に、11回目の出展をいたしました。

今回の出店社数は、過去最多133社の企業が出展いたしました。また、昨年は1日だけだった一般投資家の来場日数が今年は2日間と拡大されました。当日は台風接近のため、悪天候であったにもかかわらず多くの方にご来場いただき、あらためて一般投資家の関心の高さを感じました。当社は、今後も継続的に当イベントに参加し多くの投資家の方々が関心をもたれる情報を提供してまいりたいと考えております。

会場内全景▶



アンケートご協力をお願い

当社では皆様とのコミュニケーションをより充実させてまいりたいと考えております。つきましては、以下のアンケートにご回答頂きますよう、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

1 当社に対するイメージをお教えてください。

- ① 知名度がある ② 経営戦略が興味深い ③ 業績が安定している ④ 財務内容が安定している
⑤ 将来性がある ⑥ 研究開発力がある ⑦ 強い製品がある ⑧ 競争力がある
⑨ その他

2 当報告書で興味を持った内容がありましたか。

- ① 経営に関するQ&A ② 屋根材業界・粘土瓦業界・当社販売シェアの動向 ③ 経営成績
④ 財務諸表 ⑤ 財務データ ⑥ 株式の状況 ⑦ 会社の概要
⑧ 製品・商品紹介 ⑨ トピックス ⑩ その他

3 企業に求める最も重要なIR活動についてお教えてください。

- ① 会社説明会 ② IRイベントの参加 ③ 株主総会後の株主懇親会 ④ 工場見学
⑤ 中間報告書 ⑥ その他

4 企業情報・株式情報をどのような手段で得ているかお教えてください。

- ① 新聞・雑誌 ② 証券会社 ③ インターネット ④ テレビ
⑤ 企業説明会 ⑥ その他

5 中間報告書に対するご意見、ご要望がありましたらお聞かせください。

アンケート回答用紙

1

⑨その他の場合

2

⑩その他の場合

3

⑥その他の場合

4

⑥その他の場合

5

ご協力ありがとうございました。



株式会社 鶴弥

本社／〒475-8528 愛知県半田市州の崎町2番地12
TEL (0569) 29-7311 FAX (0569) 28-5566

ホームページアドレス <http://www.try110.com>



QMS・EMS

ISO 9001:2000, ISO 14001:2004

JSAQ325, JSAE168

粘土瓦の設計及び製造

※ISO 9001は丸福(支)を除く

※ISO 14001は丸福(支)、仙台(営)を除く

郵便はがき

4758790
937

料金受取人私

半田支店承認

586

差出有効期限
平成20年1月
31日まで
(切手をはらずに
お出しください)

半田市州の崎町2番地12

株式会社 鶴弥 総務課 行



お名前	(男性・女性)
ご住所	(〒 -)
お電話	- -
ご職業	